



できないを 力に

学校長

飯山 等

皆さんの成りたいものは何ですか。今年11月に5歳になる神戸に住んでいる初孫の新君は、機関車トーマス、ショベルカーなどはたらく自動車、恐竜と熱中しているものが変化して、それとともに彼の成りたいものも変わってきています。今はレスキュー隊員が研究者になりたいそうです。吸い寄せられるように好きなものが移行していき、成りたいものが変化していく。それはきっと保育園の友だちや、読んでもらった本から受け取って、新しく生まれてきたのです。熱中するもの、成りたいものの移りゆきは、彼の眼差しを狭めたり、散漫にさせたりするのではなく、彼の世界を広げ、濃くしてゆき、より豊かに生き活きとさせています。彼を前に進めて行く力となっているのです。新しく大谷に集う仲間、あなたが、成りたい自分を生み出す、大きな力となる大切な仲間です。そして、あなた自身も、友だちの新しい成りたい自分が生まれるための大切な一人となるのです。互いに、自分を新しく誕生させ、育て合う、大切な一人です。これから、学ぶこと、活動することの中で、わからないこと、できないことがたくさん出てきます。でも、それをプラスに、意味ある財産と考えましょう。難なく理解すること、それはひょっとして大切なものをあっという間に、後ろに追いやってしまう。そんなことになりかねません。ずいぶん前に、ラジオで流れてきたあるピアニストの言葉が今も心に残っています。彼女が初めてイギリスに留学をしたときのこと、それまで、彼女は自分の指の動きがプロになるレベルとしては十分なものではなく、ずっとコンプレックスを抱いていました。ピアニストになるためには大きな障害、マイナスとして重くのしかかって、彼女を悩ませ、自信を持たせさせていません。イギリスでの初めてのレッスン。曲の心配していた部分がやっぱりうまく弾けません。緊張が指を強ばらせてしまいます。なめらかに、流れるように弾くことができず、また日本で同じように、先生の表情を曇らせることになるだろう、同じような注意を受けることになるかと心を暗くしていました。しかし、その先生は、「すてきね。あなた、その指が思うように動かないということ大事にしなさい」と言ったのです。初めて聞いたその言葉に彼女は驚きました。今までマイナスでしかないと考えていたそのことが、あなたの大切な個性だよ、と言われたのです。そして、その先生は「早く、難なく弾けたら、そのフレーズに作曲家が込めた想いを感じ取ることができないまま、終わってしまうよね。何度も繰り返して練習することで、きっとあなたは誰よりも、作曲家のそのフレーズに込めた心を感じ取ることができるようになると思うよ」と言葉をつないだのです。わからないことが、できないことが、決してマイナスではなく、すてきな自分の財産であり、わからないことによって伝わる、ありありとわかる、ほんとうにわかる、そのことが開かれる。どうか皆さんもこれからの学びの中で、少しの苦勞でたくさんのことをわかってほしい、少しの時間でわかってほしい、そういうわかり方ではなく、深くわかること、わからない自分に対して真正面から向き合い、そうしてそのわからなさに謙虚になることを大事にしてください。わからなさをごまかさずに力にできたとき、学びは前に進み、より深くなされていきます。